

## 読解指導にパズルを解く楽しさを

田中 武夫

(山梨大学)

## 1. パズルを解く感覚を作り出そう

読解の指導をする際に大切なことは、自分の力でテキストのメッセージを読み取る楽しさを感じさせることです。それは、パズルを解くときの感覚と同じです。いくつものピースを組み合わせて絵が完成するときのように、一文一文からテキスト全体のメッセージを読み取るときにも、部分の意味を推測したり全体像を発見したりする楽しみを味わう過程があります。テキストを頭から一文ずつ和訳し、文構造を解説していく指導は、パズルを解く前に答えを教えているようなものです。読解を上手に支援するためには、教師の発問を工夫し、自分の力で読み解く楽しさを感じさせる仕掛けを作る必要があります(田中・田中、2009を参照)。

では、読解指導において、教師はどのように発問していけばよいのでしょうか。本稿では、次の3つを考えてみます。(1) テキストのメッセージを読み解く楽しさをどのように感じさせるか、(2) テキスト理解にクラスの生徒をどのように参加させるか、(3) 読解のストラテジーをどのようにクラスで共有するか。ここでは、これらのポイントを考えながら、次のテキストをもとに発問を見ていきましょう。

&lt; Text &gt;

I'm studying sign language. Through this study, I learned signs. But I learned much more.

I learned that sign language is not about just signs. For example, my teacher taught me how to sign the word 'happy'. My hands were in the right place, but other students couldn't understand me well. My teacher said, "Smile when you sign 'happy'. Then people will understand you

better." From this, I learned that facial expressions and gestures are important for communication.

(平成18年度版New Crown 3 Lesson 8 Section 2)

このテキストは、久美が最近習い始めた手話について話している場面です。概要から始まり、具体的なエピソード、そして、学んだ教訓で構成されています。もっとも重要なメッセージは、手話は手の動きだけでなく表情なども大切であるということです。“Sign language is not about just signs.”の文は、理解につまずく生徒がいるものと予想され、指導のポイントの1つと考えられます。

## 2. メッセージを読み解く楽しさを感じさせる

まず、教材の特徴と生徒の実態をつかんだ上で、次の指導目標を設定したとします。「久美が学んだこと、体験したエピソード、学んだ教訓など、テキストに書かれた情報を正しく理解することができる。」最終ゴールを設定し、それを目指した指導を逆算し、どのような発問をどのような順序で行っていけばよいかを考えます。ここでは、テキストの理解に至る Pre-Reading, While-Reading での発問を考えます。

Pre-Reading の段階は、テキストを読む心理的な壁を低くしたり、テキストを読む動機を作り出したりする導入的な役割があります。そこで、次のような導入が考えられます。「先生が手話で何と表現しているか予想しましょう。3つ表現します。当ててみましょう。」と言って、まずはヒントなしで、教師が生徒の前で実際に手話をしてみせ予想させます。次に黒板に、ヒントとして、(1) I'm sorry. (2) Thank you. (3) I love you. と選択肢を板書し、

再度見せます。答え合わせの中で、なぜ分かったのか生徒とやりとりすることで、本文の主題を理解する伏線となります。Pre-Readingでは、生徒の興味関心を高め、本文を読んでみたいと思わせる必要があります。そのため、本文内容に直接的・間接的につながる簡潔かつ本質的な導入の仕方を考えたいものです。

### 3. テキスト理解にクラス全員を参加させる

次に、While-Readingの段階に入っていきます。ここでは、1st / 2nd / 3rd Stepの3つのステップで、異なる角度から何度も本文を読ませる発問提示を考えてみます。

#### < 1st Step >

- (1) 久美は今何を勉強していますか？
- (2) 教科書にある挿絵の久美の手話はどのような意味でしょうか？ 英語1語で本文から探そう。(教師が本文を声に出してゆっくりと読んでみる。)

1st Stepの読みでは、テキストを一通りざっと読ませ、すべての生徒が答えることのできる問いを与えます。この例のように、テキストのトピックや概要をつかむためのキーワードや数字などを探させることが考えられます。これらの発問のあとに、「I learned much more.」とはどういう意味でしょう？、「much more」とは何を指しているのでしょうか？と問えば、この時点で答えを求めず軽く尋ねる程度であっても、次に続くテキストを読む動機が高まるはずで

す。2nd Stepの読みでは、テキストに書かれている詳細な情報について読み取らせる問いを与えます。

#### < 2nd Step >

- (1) 久美に手話を教えてくれたのは誰？
- (2) 他の生徒は久美の手話を理解した。○か×か？
- (3) 先生は久美に何とアドバイスした？
- (4) 久美は何が重要だと学んだのか？ (本文をもう一度通して読んでみる。)

ここでは、テキスト内容が大まかにつかめるような問いを与えます。答え合わせをしながら、テキストの意味を確認することができ、テキスト全てを和訳する必要がなくなります。この本文の新出語彙は、facial, expression, gesture, communicationですが、本文内で意味を推測できる語彙は、本文理解の際に推測させたり確認したりするとよいでしょう。

### 4. 読解ストラテジーをクラスで共有する

未知語の意味を推測したり、概要を読み取ったり、文構造や文章構成を考えてみたりと、読み手がテキストの意味を解釈するために使う手段は、読解ストラテジーと呼ばれます。読解ストラテジーは、今後新たなテキストを読むときに欠かせません。テキストの意味をどのように導き出せるか、教師がすぐに解説してしまうのではなく、生徒に発言させながらクラス全員で共有します。

例えば、2nd Stepの発問(2)の場合、答えが○か×かをまず全員に尋ね、テキストのどこで判断したかを尋ねます。「My hands were in the right place」とはどういうこと？、「butのあとには普通どんなことが続くかな？」と尋ねたり、「other students couldn't understand me well」の文で、「『他の生徒』を英語で何と言うかな？」、「other studentsのあとに何て書いてある？」、「couldn'tとは何かな？」などと尋ねたりして、英語の得意な生徒も苦手な生徒も活躍させながら、文と文の関係や意味を確認していきます。大切なことは、教師がどのようなヒントをいつ提示するかをよく考え、部分的な意味理解からテキスト全体の理解をクラス全員で作りに上げることにあります。

3rd Stepの読みでは、テキストのもっとも重要なメッセージを確認する発問が考えられます。

#### < 3rd Step >

- (1) "Sign language is not about just signs." は日本語でどういう意味でしょう？
- (2) この文はどんなことを意味していると思う？ (本文をもう一度通して読んでみる。)

この発問は、テキストの要点を尋ねています。つまり、テキスト全体の意味を理解しているかどうかを尋ねる問いです。応用的な発問のため、教師が「ここではsignsって何を指しているかな？」、「久美が手話をしているとき久美はどんな顔をしていたと思う？(怒った顔、無表情、笑顔の3つの絵を板書する。）」、「結局、何が大事なの？」などの補助的なヒントや発問を与え、生徒からの多様な意見をもとに、テキストの主題を理解させるとよいでしょう。

【参考文献】 田中武夫・田中知聡(2009)『英語教師のための発問テクニック：英語授業を活性化するリーディング指導』大修館書店。